

校長室からのお知らせ

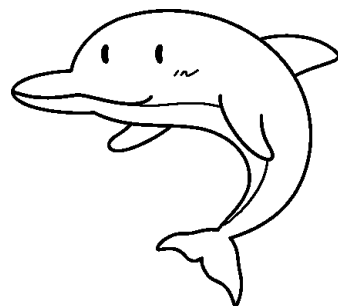
11月20日号 NO.28

岸和田市立浜小学校
校長 尾野 武志

考える力

高学年の学級担任をしていたころ、授業の余った時間にクイズをよく出していました。「ある なし クイズ」もよく使っていました。

「肩」	にあって	「腰」	にはない
「磁気」	にあって	「電気」	にはない
「軽い」	にあって	「重い」	にはない
「地帯」	にあって	「地域」	にはない
「下落」	にあって	「上昇」	にはない
「グッド」	にあって	「ベスト」	にはない
「菓子」	にあって	「ご飯」	にはない



このようなクイズを出したときに、子どもの反応が次のように分かれることが多かったです。

- ① すぐに答えを聞きたがる
- ② ヒントを欲しがる
- ③ じっくりと一人で考え込む

教室の前の黒板にクイズを書きますので、少し時間が経って後ろの黒板に「ヒント 【ある】 をすべてひらがなにする」と書くと、①と②の子は、すかさず後ろを向きます。しかしながら、③の子は前を向いたままで、考え続けています。

①②の子どもたちは、答えを知ることが目的で、答えを知れば満足してしまい、考える力を伸ばすチャンスを逃しています。③の子どもたちは、頭をフルに回転させ、考える習慣を身につけていきます。

なぜ、その答えになるのかを自分で考えてみないと考える力はつきません。考える力が身につけていないと、何かが起こっても自分一人で解決することが難しくなります。意見を求められたり、好きにやっ
ていいよと言われていたりすると困ってしまいます。

お子様が保護者のみなさまにいろいろと質問してくることもあると思いますが、答えを教える前に「あなたは、どう思うの？」と聞き返し、お子様の考える力を伸ばすチャンスを時々与えてください。